

市長あいさつ

皆さんおはようございます。北九州市長の武内和久でございます。本日は多くの方にこのミライ・トークにお集まりいただきまして、ありがとうございます。冒頭からお子さんたちの明るい歌声で気持ちが大変明るくなりますが、このお子さんたちの未来を決めるのもまた、未来に向かって道筋をつけるのも、私たち大人の役割だろうと思います。

いまこの北九州市の新しい未来像を作るためのベクトルをみんなで合わせよう、ということで、ミライ・トークを各区で開催させていただいています。小倉南区は今回が2回目ということで、前回もかなり盛り上がりまして色々なご意見をいただきました。限られた時間ではございますが、パネリストの皆さんのお話をお聞きになって何か気づきや考える点を発見していただく機会にさせていただければと思います。

今日のこのパターンの会場設定は、ミライ・トークで初めてで面白いと思っておりますが、このミライ・トークというのは、各7区の区役所の若手職員の皆さんがそれぞれ中心となって企画をしたり、後でプレゼンをしてくれたりと、それぞれの区のオリジナリティ、特色が出る形で開催させていただいています。南区は「いいね！ボード」もありますし、南区らしさを出して企画をしていただきました。南区の職員の思いや工夫にもご注目いただければと思います。

また、今日はパネリストの皆さんにもお忙しい中お越しいただきありがとうございます。今日は皆さんのご経験の中から未来志向のお話、そしてご来場の皆様からも時間の許す限りお話を伺う、そのような会にしていきたいと思っておりますので、ぜひ皆さんの気づきと思いのある会にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

パネルディスカッション

進行（重岡）：

はじめに尊田区長より、小倉南区のポテンシャルについて、少しおまとめいただけますでしょうか。

尊田区長：

おはようございます。小倉南区長の尊田でございます。ギネス更新ができて大変うれしく思っているところですが、どうぞよろしくお願いたします。

それではポテンシャルについてご説明します。A4横の紙を本日は皆さんにお配りしていると思います。こちらを見ながら説明をお聞きいただければと思います。

南区の将来のまちの姿を考えるにあたっては、市の発展、活性化のために区の特徴を最大限生かしたものであることが大変大事でございます。まずポテンシャルや特色、課題について説明します。

ポテンシャルですが、区を大きく発展させる可能性や特徴です。これらについては、最大限PRしておりますが、まずは「自然」です。曾根干潟は、カブトガニや渡り鳥など生物多様性の宝庫でございますし、平尾台もでございます。こういった多様な自然が小倉都心部から車で30分の近さにあります。また、「食文化・歴史文化」は、先ほどご説明もさせていただき、こちらにも美味しそうな写真もあります。これらに加えて、「交通アクセス」については、2027年8月に北九州空港の滑走路が3000mに延びることを起爆剤として、人や物の交流が飛躍的に伸びるのではないかと期待されております。また、「産業」・「コミュニティ」といったこれまでの蓄積もでございます。

一方で課題については、高齢化を中心に平尾台などの里山の維持管理や、農業等の後継者不足の問題。また若い世代の魅力的な就職先が足りないこと、重症化リスクのある高血圧の方が多く、空港やその周辺で働く人の利便性の低さ、町内会では若手が不足していることや、学生から子育て世代、高齢者世代の上下の関係、横のつながりの希薄化といったことがございます。豊富にある小倉南区の魅力について先ほどご説明しましたが、それらが点在していて、連携できておらず、発信力が足りないといったことを挙げております。

本日はこのポテンシャルを最大限延ばして、将来どんなまちにしたいのか、また課題を解決して目指すまちにするためにはどうすればいいのか、ご意見をいただきます。赤枠にまとめていますが、将来のまち、これについて皆さんにアンケートに書いていただこうかと思っております。この目指すまちに向けて自分がまずどんなアイデアがあるのか、どんな取り組みをすればいいのか、また市民としてどういう取り組みをやっていけばいいのか、自分ならどうするのか、といった具体的な意見もいただければと思っております。

例え話となりますが、私は健康のためにジョギングをしていますが、そういった私の目から南区を見ると、自然や食の魅力を活かした、ランニング、健康のまち、といったことが思い浮かびます。平尾台の景色を眺めながら、食の特産品を巡るようなコースができますと、魅力も高まって効果も広がると思えますし、コース作りから私も参加したいなと思えます。このような感じで、自分の関心のあることから興味を持っていただき、少し先の未来について“自分ごと”としてお考えいただき、ご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございました。今、ご“自分ごと”としてとありましたので、ここからはパネリストの皆さんにご自身の活動をされる中で特にこの南区のポテンシャルで大事だなと思うこと、その理由とともに話していただきたいと思っております。

まず、トップバッターは池井遥香さんです。池井さんは、北九州市立大学外国語学部4年生でいらっしゃって SNS で選挙の投票を呼びかけるなど、若者の社会参加を発信する活動をされています。お願いします。

池井氏：

ただいまご紹介に預かりました、池井遥香と申します。よろしくお願いいたします。

私が考える小倉南区の強みですが、自然とまちのバランスがとてもいいなと思っていて、先ほど区長もご紹介されていたと思っておりますが、平尾台などももちろん、まちの中もすごく緑がおおく、非常に過ごしやすいなと思っております。それでいて、交通の便もすごく良くて住みやすいまちだなと感じております。

その一方で課題としては、若い人にそういったまちの魅力が届いていないと感じていまして、スマホ一つで世界の情報、例えばウクライナの状況であったりとかは得られるのですが、最も身近なこの小倉区の情報は届いていないとすごく感じています。私の周りはもちろん大学生が多いのですが、県外から来ている人も多く、まだまだまちの魅力を分かり切れていないところがあったりします。まちのことをもっと知れば知るほど愛着は湧くのだろうと思っておりますが、情報が届いていないため愛着が感じづらいということがあるのではないかと思います。

もう一つ、多世代にわたる交流が少ないと感じていて、私は若い世代の人間として、いろんな世代の方と交流していろいろとお話ししたいという思いが強くなります。

進行（重岡）：

いいね！ありがとうございます。今日もいろんな世代の方がいらっしゃっていますね。

池井氏：

そうですね。本当にここに来てくださっている若者も、もちろん話が聞きたいからここにいらっしゃってくれているわけで、やはりそういう人は存在しているけれど、交流の場がないとか、どこへ行けば交流できるのか、どうしたら交流できるのかが、伝わりづらいといことがあると思います。学校の中は出会いの場と言われたりしますが、意外と狭いコミュニティで、自分から外に出ないと外のつながりがもてないということがあったりするので、もっといろんな世代の方と関わりとか交流がもてるような場を作ったり、こうことをやっていますというような情報発信だったり、若い人にもっと伝わるようになればいいのではないかと感じております。

進行（重岡）：

情報発信についてご意見がありました。前の方に若い世代の方が居て、いいね！がちらほら見えていますが、やはりそうですか。みなさんどう思われますか。喋る機会がない、場がないということでしょうか。

池井氏：

そうですね。授業で講義の方が話をしてくださっても、終わったら帰ってしまわれるため、結局お話は出来ないという感じです。

進行（重岡）：

後ろの方に先輩方がいらっしゃいますが、若い方と話をされたいと思ったりはされますよね。ありがとうございます。そうですね、お互いにどこへ行ったらいいのか、何をどうしたらいいのか、というジレンマがあるかもしれません。その辺については、次の順番でまたお話しただければと思います。

それは次のパネリストの方、吉田一直さんです。吉田さんは YK STORES 株式会社の代表取締役でありながら、先ほど VTR にもありましたソラランド平尾台の企画広報プロデューサー、さらに北九州モノレールの PR アドバイザー、さらに医療法人岩本内科医院の企画広報プロジェクトプロデューサー、そしてビッグベアーズピザの PR アドバイザー、さらに北九州市立高等学校の魅力化コーディネーターも務めていらっしゃいます。

吉田氏：

ありがとうございます。長々と失礼しました。改めて吉田と申します。よろしくお願ひします。

まず、小倉南区の非常に重要なものという点について、先ほどの小倉南区生誕 50 周年アンケートにもありました、平尾台が私自身の区の強みだと思ひます。私は 2002 年から平尾台にありますソラランド平尾台の企画広報プロデューサーをやっています、ありがたいことに、ここで名前は出せませんが、ある旅行サイトの福岡県の人気観光スポットで 1 位を獲得させていたできました。また、先日ネットニュースで進化が止まらない公園、ということで新しく魅力が多くの方に広がりつつあると思ひます。ソラランド平尾台がきっかけでまず平尾台に来てもらう、

そこから先に新しい体験、例えばケイビングなど、小倉南区でしか体験できないことを、日本はもちろん世界に発信できるポテンシャルを私自身が世の中に広めていけたらと思います。

同じく先ほどの50周年のアンケートにもありました、北九州モノレール。このモノレールは皆さんご存じの通り小倉駅につながっていますので、新幹線からモノレールに乗ることができます。その結果、最高の移動ツールである新幹線からダイレクトにモノレールに乗る。このモノレールは便数が多く、山手線まではいかないですが非常に多いですので、時刻表を見なくても乗ることができる。そして、シンプルな路線ということで、小倉方面と企救丘方面しかございません。正直なところ小学生でも乗れると思います。その安心感は、県外から来る観光はもちろん、インバウンドの方、日本語の読めない方でも非常にシンプルに乗れる最強のツールだと思っています。このモノレールを使うことで、小倉南区はもちろん北九州の観光は一気に加速すると思っております。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いいね！ボードがあがっています。皆さん、モノレールを活用されている方はいらっしゃるのでしょうか。学生さんですね。市民にとっては通勤通学の足というのが大きいと思いますが、吉田さんのお話にあった観光はどうでしょうか。イメージしやすいようなしにくいような。モノレールに乗ることが観光ということにもなるのでしょうか。

吉田氏：

そうですね。まず、モノレールに乗ること自体も観光でして、例えば皆さんが県外に行かれたとして、沖縄でも結構ですが、行ったこともない土地に行って渋滞にも捕まらず気楽に乗れる公共交通で、しかも時刻表を見なくても良い、行先も間違わないというのは、それだけでも魅力的だと思います。また、先ほどありました小倉駅というのは都会ですが、そこからモノレールで約30分以内に小倉南区まで行くことができます。そこからまた、お出かけ交通という違う交通網があるので、それに乗れば平尾台にある東谷まで行くことができます。大自然まで一気に行くことができる交通網も実は北九州は持っています。

進行（重岡）：

なるほどですね。モノレールと観光が結びつくというあたりはもう少し掘り下げてお聞きしたいので、後ほどまたゆっくりお聞かせいただきたいと思います。ありがとうございました。

もうひとつ、パネリストをご紹介します。安河内倫子さんです。安河内さんはNPO法人光楽園の認定こども園 おひさまいっぱい光楽園の保育サポーターとして働いていらっしゃいます。ニュージーランドで生まれた幼児教育の場、プレイセンターという場がありますが、実は日本には20か所しかなく、そのうち4つが北九州市内にあり、しかも4つのうちの3つは小倉南区にあるというのはご存じでしたでしょうか。私も聞いてびっくりしましたが、その小倉南区に3つあるうちの1つ、ねっこぼこの運営にも携わっていらっしゃいます。それでは、安河内さんが思う、小倉南区の強みや重要だと思うものについてお聞かせいただけますか。

安河内氏：

はい。安河内倫子です。よろしくお願いたします。

先ほどから、パネリストの方たちや若い職員の方が紹介していたように、小倉南区には子ども達が五感を使って遊び込める自然豊かな環境があることは、ものすごく強みだと思っています。守恒に住んでいますが、この時期になると、朝からものすごい蝉の声が聞こえるような場所で、今朝も蝉の声で目覚めました。ドアを開けるとまた蝉の声が聞こえて、そんな自然豊かなところが私は大好きです。

そんな自然が強みでもあり、子育て支援をする場も非常に整っていると思っています。妊娠期からの切れ目のない支援、妊娠期から地域につながる場、仲間を作る場があります。基本的な信頼関係を築く最も大切な0歳～1歳半の時期の子育てを支援する場もしっかりとあります。そして、先ほどご紹介いただいたプレイセンター、そして NPO 法人光楽園、そのほか、親子ふれあいルームさざんや、プレイパークなど様々な場所で子育て世代が学生や高齢者と集う場がしっかりと整っています。

一方、課題として、特にいま核家族や生まれ育った場所以外で子育てをする人の増加により、また最近ではコロナが流行したことで、子育てが孤立する「孤育て」となっている、子育て家庭の孤立化という問題があります。子育て世代の皆さんは、悩みごとが常に付きもので、妊娠期からはじまり0歳児の時もそうですし、うちは上の子どもが中3ですが、中3になると中3の時の悩みがあったり、たくさんの悩みを抱えているのですが、そんな悩みを手元にあるスマホで相談するような子育て時代になってきているのかなと寂しく思っています。

また、保育園、幼稚園の預かり保育が充実していることはとても素晴らしいことですが、それを利用する共働き家族が増えたことにより、地域支援の利用者の低年齢化が進んでいます。その低年齢化によって、地域とつながることの大切さを伝える時期が短期間化しています。支援する場はたくさんありますが、利用できないという現状や、地域のつながりの希薄化により、新たな支援の担い手が生まれづらくなっているのが現状ではないかと思っております。

進行（重岡）：

地域支援の利用者の低年齢化というお話がありましたが、具体的にはどういったことが起きているのでしょうか。

安河内氏：

女性が社会進出する時代となっているので、女性も働くことができますが、保育園は6か月から赤ちゃんを預けることができるので、保育園に赤ちゃんを預けて働く方が増えています。生まれてから6か月のその期間に一生懸命に子育て支援の場を探されます。私の子育て時代は2年保育が主流で、まだ2年保育という言葉がある時代だったのですが、今はもう6か月から保育園に預けるのが当たり前になっていて、地域と交流する時期がすごく少ないのかなと考えています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。南区の課題などからご自身の活動を踏まえて、特に大事だと思うこと、課題点等お話しいただきました。ここからはもう一巡、ではご自身がどうしたらいいのか、区の将来像についてお話ししたいと思えます。池井さんからよろしいですか。

池井氏：

私の考える小倉南区の将来像は、「多世代にわたり人がつながりお喋りが絶えないまち」です。私が思うのは、みんな本当はお喋りを求めていると思います。例えば、子育てのこともそうですし、自分の将来どうしようとか、どんな働き方があるのだろうかとか、最近こんないいことがあった、こんなよくないことがあったなど、人と共有して交流する時間というのを潜在的に欲しいと思っているのではと感じます。

私自身、人とのつながりや対話がすごく大事で、私自身が主に若者に向けて選挙の啓発 SNS みたいなものやっていたのですが、これをはじめたときに本当にいろんな方と、地域で言うと一番遠くて東京から北海道の方までつながって、実際にたくさんお喋りをして、色々な気付きや学びを自分自身が得られて、自分の頭で考えるきっかけにつながったかなと実感しています。さらに、人と話すことで自分自身の考えたことをもっと深めることができ、人の意見を聞くことで、そういう考え方もあるのか、それだったらこういうこともできる、こういう考え方もあるなど自分自身の意見も深めることができ、自分自身を成長させることができると考えています。

まちや社会を作るのは結局人なので、そうやって対話を通じて、お喋りを通じて交流して、共感して、気付きを得て、学んで自分で考える、そういう人が増えれば小倉南区のまちはもっとよくなるのではないかと考えています。

進行（重岡）：

いいね！があがりました、後ろの方からもあがっています、ありがとうございます。なるほどと思いました。お喋りするのと同世代が多くないですか。同性代だけではなく、世代を超えて多世代ということで、池井さん自身は多世代とお話する機会が、今増えていますか。

池井氏：

そうですね。選挙プロジェクトを始めてから、いろんな人と出会って、選挙プロジェクトを通じて出会った人から紹介された人と出会って、本当につながりが広がって、いろんな世代の方と交流する機会が増えて、色々な考え方や自分の生き方、選択肢も広がったなと感じています。

進行（重岡）：

これは打ち合わせではお聞きしていないのですが、池井さんがそういったお喋りをしたり、聞く活動をする時に大事なことは何だと思われますか。多世代の方とお話ししようと思うと、緊張したりすることもあると思うんですが、例えば若いくせに、と言われたらどうしようとか怖くなったりしないかな、と思うのですがどうでしょうか。

池井氏：

全然そのように思う必要はなくて、やはり年上の方は本当に色々な経験されているので、すごい人だと思うのですが、めちゃくちゃ遠い存在とを感じる必要はなく、やはりその方々も若い時代を経験されているので、ある程度分かってくれるというか、そんなに気負わなくてもフランクに話しかけてもフランクに返してくれる方が多いので、本当に気負わなくていいよと言いたいです。

進行（重岡）：

ありがとうございます。気負わずにお互いに尊重し合いながら話ができるといいですね。それでは続いて、吉田さんから、ご自身の考える区の将来像についていかがでしょうか。

吉田氏：

私の考える小倉南区の将来像は、「観光で稼げるまち」です。その理由としては、先ほどの平尾台や北九州モノレールはもちろんですが、カブトガニの居る曽根干潟など、まだまだその価値が日本はもちろん、世界にも正直なところ発信できていない状況です。その本質的な魅力と価値を正しく届けることで、こういう素晴らしい観光地がある、ということ、市民はもちろん、日本や世界の人に届けていけば、観光で稼げるまちになると私は考えております。そのためには、各施設が頑張ったところで限界があるので、やはりみなで力を合わせて、まち自身が世界に選ばれる場所という意識を持ってやれば、必ず私は実現できると考えております。

進行（重岡）：

先ほどモノレールと観光の可能性ということで、何か具体的なアイデアなどがあれば。例えば、ビールが飲めたり、ワインが飲めたりあると思いますが。

吉田氏：

そうですね。まさに本日、旦過で作られたクラフトビールと旦過で作られた食品を食べながらモノレールで旅行というか、モノレールに乗ってビールを飲もうというイベントが実は本日開催されます。チケットはすでに売り切れていますが、こういったことも県外の方はもちろん、海外の方に日本で作られたクラフトビールがモノレールに乗って大自然まで行って飲むことができるよ、ということも伝え方が正しく伝われば、面白いものになると思っております。

進行（重岡）：

将来的にモノレールで観光というと、バスガイドのような方も必要なのではと想像するのですが、その可能性はどうでしょうか。

吉田氏：

それは非常にお面白いと思います。やはりそれは需要と供給の問題があるので、今はまだどうしても必要ではないかもしれないですが、今後そのレベルまで達すれば非常に魅力のある観光ツールになると思います。

進行（重岡）：

通勤通学だけじゃない可能性がある、ポテンシャルがあるということですね。ありがとうございます。それでは続いて、安河内さんに区の将来像について、子育ての立場からになるかと思いますが、お話しください。

安河内氏：

私が思うこんなまちは、「子育てを通して人がつながり、人が地域が育つまち」です。大事なのは未来への人づくりかなと思います。人づくりということにかすごく偉そうですが、別に人

を作っているという意識は全くなくて、すでに私が関わっている、先ほどご紹介した各施設では、すでに人づくりが始まっています。子育てにやさしい環境の中では、ママたちが毎日大変な子育てをしているのですが、ひとりで頑張らなくてもいい、誰かの手を借りてもいい、と思える安心感がゆとりある子育てにつながっています。親も子も安心していただけるそんな場所で子どもが、親が豊かに育ち合えます。

様々な価値観に触れる親は、たくさんの親に会うので、様々な価値観を持った親がいて、互いの子育て観の違いや遊び方なども様々です。プレイセンターは、ママたちによる自主運営の場になっているため、その中でこんな時はどうすればいいのだろうと運営について悩みが出てきますが、その都度悩みを分かち合い、学び合うことでさらに親が育ちます。

共に育ち合い、縦のつながり横のつながりから世代間交流の中で支え合う子育てを経験した親が、子育てがちょっと落ち着いた時に、今度は自分が住む地域で子ども会や自治会、また市民センターの子育てサポーターなど、新たな担い手として自分の住む地域で活動しています。私の周りには実際にそういう方がたくさんいます。それが私の描く将来像かなと思います。

進行（重岡）：

孤立化しないために子育て支援を、くらいまではよくある話だと思いますが、安河内さんのお話では、その先に、共に育ち合った親たちが今度は先輩となった時に良い子育ての循環が生まれるというようなイメージでしょうか。

安河内氏：

はい、大変分かりやすい説明をありがとうございます。そういうイメージです。

進行（重岡）：

一緒に育ち合い、裾野が広がっていくようなイメージが湧きました。ありがとうございました。

質疑

進行（重岡）：

パネリストの方にいろいろお話しいただきましたが、皆さんがお書きいただいたアンケートがたくさんありますので、一部をご紹介しながら皆さんと意見交流をしたいと思います。

まず、はじめのアンケートは、あなたが考える小倉南区のポテンシャル、魅力について「豊かな自然資源に恵まれた地域と、温かな人々の交流の輪がある」ということで、このことを書いている方が非常に多かったということで、ご紹介させていただきました。いいね！ボードが上がりませんが、書いた方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。たくさんの方が感じている魅力だと思います。ありがとうございます。

続いて、その小倉南区のポテンシャルを踏まえてあなたが目指す 20 年から 30 年の将来像について、「地域住民がより地域で行っている活動を知り、その活動を伝えていくことが大切だと思います。そうすることでより地域の関係性が高まり、助け合える区になると思います」といただきましたが、このご意見を書きくださった方はいらっしゃいますか。学生の方、高校生ですかね、ありがとうございます。地域の活動を知ることが大事と書いてくださっていますが、知ってもらう、知るためにはどういう手法があるか、思うところはありますか。

参加者：

私は若い世代だと思いますが、情報を知るのはスマートフォンや Instagram が多くて、地域の発信をしている Instagram もたくさんありますが、北九州の地域のおすすめの場所などを紹介している投稿は少ないなと感じています。そういったものを増やしていけばもっと北九州に行ってみたいとか、南区に行ってみたいと思う人が増えるのではないかと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いま、池井さんからいいね！があがりましたが、先ほどおっしゃっていた、知ること、そして会うこととつながりがあるかと思いますが、お聞きになっていかがですか。

池井氏：

若い世代、同じくらいの世代と言わせていただきたいのですが、同じくらいの世代の方がそうやってまちのことをもっと発信できたらいいんじゃないかと考えていること自体がすごく嬉しくて、やはりそういうところをちゃんと掘り上げていきたいなと思いました。大学生としても協力して、高校と大学と地域の人とが協力していろいろとやっていけたらすごく楽しいだろうなと感じました。

進行（重岡）：

今のお話とつながるのですが、ご意見がまだありまして、どうすれば伝わるのか、いいところが若い世代、そうではない世代でも伝わるか、これはどうすればいいか、吉田さんからアイデアとかはありますでしょうか。いろいろな情報が若い世代などにどうすれば伝わるのか。

吉田氏：

それはもうおっしゃる通り、SNS の活用など、確かに各施設も情報発信してはいるんですが、やはり大人が発信する情報なので、おそらく今はレコメンドと呼ばれる、その人にあった情報が行くようなシステムが出来上がっているんで、どうしても属性に合わない人たちには届かなくなってしまうと思います。その調整を我々が、若者に届くような調整をしていかなければならないのは間違いないと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。もう一つ課題がありまして、「学生さんたちはそういったことを例えば学校で知る機会があるが、親世代があまり知らないのではないか」というご意見もありました。いいね！もあがっています。このご意見について、池井さんはいかがでしょう。

池井氏：

私は親世代ではないですが、県外から来たものとしては、本当に地元の情報がないと思っていて、大学周辺の地元飯などは目に付くので行くことができますが、それ以外の大学周辺以外の魅力について、祭や今日も色々特産品などを紹介されていましたが知らないなと思って、もっと知りたいとは思っていますが、情報発信の部分が難しいなと思います。

進行（重岡）：

なるほどですね、それは1つの課題で、将来的に逆にどうなればその情報が手に届くか、どなたかアイデアのある方はいらっしゃいませんか。なかなか情報については発信するというのも大事ですし、受け取るというのも大事ですし、双方向がこれから将来的にどのようにすればスムーズになるのかちょっと期待したいところではありますね。

引き続きアンケートからご紹介したいと思います。未来のポテンシャル、将来像についてお書きいただきました。「高齢化社会で若者の人口が減る中、私たちがどのように南区を活性化していくかが問われると思う。一番有効なのは、若手の従業員を集めるのも必要だが、注目されるインバウンドの効果も期待すると良いと思う。観光地として外国人や若者を呼び寄せる魅力を引き出すことが大切だと思う。」とご意見をいただきました。これをお書きいただいた方はいらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。お尋ねしたいのですが、観光地としてということでは何かお考えになることはありますか。

参加者：

観光地としてなんですが、先ほどスライドで見せていただいたのですが、例えば平尾台や曾根干潟など、自然の豊かなところがやはり一番の魅力かなと思います。自然を伝えるというと、日本には自然が多いため、南区の自然の良さが埋もれてしまうのではと思い、少し考えてみました。例えば SNS を利用して、豊かな自然の風景を発信してみたりですとか、交通でも少し考えてみたのですが、先ほど吉田さんが言ってくださったように、モノレールが非常に便利だということで、海外の方にも使いやすものではないかということでしたが、海外から来るということは、北九州空港から来る可能性もあるため、北九州空港を通じて、モノレールを通じて動線をつなぐことができれば、もっと北九州の活性化ができるのではないかと考えました。

進行（重岡）：

ありがとうございます。吉田さんは今お聞きなっていたかがですか。

吉田氏：

素晴らしくてびっくりしてしまいました。素晴らしい考え方で私も同じ意見ですが、確かに、観光地化すると自然が乱れてしまうのではないかと懸念はおっしゃる通りだと思いますが、このバランスはもちろん取っていかなくてはいけないのですが、一番よくないのは経済として成り立たない観光と自然を作ってしまうと、どうしても維持ができないため、荒れた山になってしまう。根幹は本当の価値を日本の方はもちろん、世界の方に伝え、要は無料だからいいという世界ではなく、ちゃんとお金を取って正しい評価をしてもらい、そのお金で地元も整備する。道路の整備はもちろん、自然の整備をするというシステムをしっかりとつくるという意味では、現状課題でもありますし、私自身も目指さなければならぬポイントですが、おっしゃる通りだと思いましたので、本当に素晴らしかったです。ありがとうございます。

進行（重岡）：

ありがとうございました。できるだけたくさんご紹介したいので、次のご意見を紹介します。未来の区の将来像についてですが「海と山を活かして、自分のライフスタイルを実現できるまちになるといい」というご意見をお書きいただいた方、いらっしゃいますか。そのほか「海の

幸、山の幸を使ったグルメを商品化する」というアイデアもありましたが、いらっしゃいますでしょうか。いらっしゃいました、ありがとうございます。少しお尋ねしたいのですが、ご自身は日頃、小倉南区の魅力を活かして、どんなライフスタイルをたのしんでいらっしゃるのかということについて。

参加者：

山と海をつなぐといいましたが、古代道を作ったらいいと思います。平尾台に登るのはいま、裏からのぼるのですが、古代道は貫山から登って、等覚寺に行くんです。そこから御所ヶ岳に行つて宇佐まで行っていたんですよ。ここを通っていたんですよ。それから、曾根干潟ですが、カブトガニがこないだ 100 匹ほど死んだけどですね、殺してしまっているんです。それは何かあったら土砂処分場ですね。フィリピンから泳いでくるウナギを殺すのと一緒です。昔、自分が小学生の頃はここでウナギが取れたんですよ。全部違うんですよ。もう少し曾根町のことをお調べになってから、そこでお喋りしたらどうですか。古代道を知らなすぎます。

進行（重岡）：

古き良き時代のことを知りながら、新しいこれからのまちづくり…

参加者C：

周防灘に変わっているんです。港が変わったから、フェリーが変わったんです。だから今、しないといけないことは、まずはこの曾根駅を立体化しなくてはいけないんです。新町井ノ浦線というのは昭和17年にまつがえ町のお金までもらっているのに、未だにできていないんですよ。井ノ浦から飛行場に行けばいいんですよ。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いいね！があがっています。お時間の都合上、次のご意見をご紹介します。「将来、子育てしやすいまちになってほしい」というご意見をいただきました。こちらお書きいただいた方はいらっしゃいますか。これについては安河内さんにもお尋ねしたいのですが、どうすれば子育てしやすくなると思われるか、必要なもの、こんなものがあればというお声をいただきたいのですが。それでは会場内どこかにいらっしゃるとして、安河内さんにお聞きします。子育てしやすいまちに必要なものやことについては、どのように思われますか。

安河内氏：

いま、昔の自然はこうだったんだよとお話がありましたが、私が働く NPO 法人光楽園も、目の前に田んぼが広がっていて、あぜ道を走って小さな子身神社まで行って、たくさんのカエルを捕まえたりして、自然の中でたくさん遊んでいます。そういう自然が子育て環境に、子供が育つ環境としてすごく大切だとおもっているの、これからは私の中では無くさないで欲しい部分だと思っています。

また、先ほどもお伝えしたんですが、子育て中のママは孤立化しやすいです。一人で子育てをしているような感覚、加えて今は共働きの方が多いので、保育園に預けてお迎えに行くのが18時とかで、お迎えに行つて帰つてきて、慌ただしくご飯の準備をして食べさせて、お風呂に

入れて、絵本を一冊読めたらいいなというような関わり方になっているかと思います。そこで私がやっている活動の中での保育園や市民活動の中で親を支える取組み、共に支え合うという活動にはなっていくと思いますが、心が豊かになると子育ても楽になるとと思いますので、そのような観点から、人を育てるということにつながっていくと思いますが、やっていけたらいいなと思っています。

進行（重岡）：

人を育てるというお話がありましたが、そのために何ができるか、何が必要かというのは、これから考えていけないところかと思いますが、もうひとつご意見がありまして、小倉南区の魅力と課題について「子供が遊べる公園が増えているのが魅力。ただ、雨の日や真夏に遊べる室内施設がもっと欲しい」という声、「子供を連れていけるようなレストランが少ない」といった声を書いていた方、会場にいらっしゃいますか。

手が上がらないようですが、ちなみに、今日お越しいただいている安河内さんの活動をご存じだった方はいらっしゃいますか。何人かあげてくださってありがとうございます。もっと知ってほしいですね。

安河内氏：

もちろんです。たくさんの方に知っていただきたいと思います。先ほど、ご飯を食べる場所や、雨が降っている時などに遊べる場所がすくないというご意見がありましたが、各区にある親子ふれあいルームには、室内遊びがそれぞれの年齢にあった発達にあった遊びが十分に用意してあるのと、コロナ禍を経て、今はお昼ご飯を食べる場所も使えるようになっていますので、ぜひ利用してみてください。

進行（重岡）：

ありがとうございます。20代以下のご意見ですが「地域住民の関わりだけではなく、他の地域とも関わりを持って、小倉南区だけではなく北九州市を盛り上げていくことが大切」ということを書いてくださいました。こちらをお書きになった方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。北九州市全体を盛り上げていくということを考えてくださいましたが、どうやって関わりを持っていけばいいのか、悩ましいところですが、考えていることを教えてもらってもいいですか。

参加者：

小倉南区には、“まつりみなみ”がありますが、“まつりみなみ”だけではなく、北九州市全体で大きな祭とか行事を行って、それを県とか北九州だけではなく、九州、全日本にどんどんつなげていけたら、日本全体が盛り上がり、それを世界に発信していったら、もっと盛り上がるんじゃないかと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。区長、今の若い方のご意見をお聞きになっていかがですか。

尊田区長：

いろいろなイベントがありますので、おっしゃるとおり、しっかりと情報発信してやっていくのが必要だと思いますし、お祭りやイベントなどは、先ほどお話に出たような人と人をつなぐ機会にもなると思いますので、ぜひ頑張っていきたいと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。それから、小倉南区の課題を踏まえて目指すべき区の将来像について、「地域の行事を通じて年代を超えて関わることができるため、行事を増やして縦と横のつながりをもっと深めたいと思う」とご意見いただきました。これについてパネリストの皆さんにご意見を伺ってもいいですか。

池井氏：

若い層と、運営をやられている年齢の高い層の人がつながったほうが絶対に楽しいし、面白いと思うのですが、そこをつなぐ役割というか、そういう機関だとか団体があると、すごく若い世代的にも助かるし、多分人手を求めている層の方も助かるのではないかと思います。

進行（重岡）：

先ほどおっしゃってくださった、多世代がつながるための地域の行事を通じてというのが一つの方法ですね。他にも何か、多世代がつながる方法はないでしょうか。

池井氏：

個人的な意見になってしまうのですが、先ほどから何度もお喋りと何度も主張しているのですが、そのような空間を用意していただけるとすごくいいなと思っています。例えば、小倉南区は市民センターの数が北九州で二番目に多いのですが、そういう場所があってポテンシャルがあるので、そこをもう少し魅力的な場所として発信してもらい、若者が自ら進んでいくような、軽く勉強したいから市民センター行ってみようかという感じで、地域の人もたくさん集まってきて、全然知らない人たちとお喋りしている、そんな空間ができればいいんじゃないかと思います。

進行（重岡）：

いいね！が遠くからもあがっています。ありがとうございます。市民センターを結構利用しているという方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。ということは、行けば多世代の交流が確かに生まれそうですね。小倉南区は区の平均年齢が若いと聞きましたが、区長。

尊田区長：

7区で一番若い区でございます。ですから、今日いろいろな若い方のご意見、若いお母さんのお話しなど、とても大事なものでございますので、しっかりと受け止めて参りたいと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。もうお二方にもお聞きしてみましようか。年代を超えて関わるには、どうすればそういうつながりができるのか。

吉田氏：

私が思ったのは、こういったイベントをもう少し多くの回数やるのが、もしかすると交流の場になるのかなと。今日実際にこの短時間でものすごく面白い話が聞けたので、皆さんもおそらくなるほどと思われたのではないかと思います。もちろん市の職員の方もそうだと思います。この回数を増やして行って、まずは慣れさせていくのが先なのかなと感じていますが、その辺はまだいろんな課題があると思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。安河内さんからも良ければご意見聞かせていただけますか。

安河内氏：

子育て中の親子が多世代に交流する場として、北九大のプレイセンターの活動や、ミニプレイパーク、プレイパークという活動も行っています。先ほどお話しがあったように、中学生や高校生が立ち寄れる場所が、思えばあまりないような気がしています。小学生などは兄弟のつながりで出会うことがあります。中学生、高校生となると、そのようなつながりがなかなかありません。光楽園には学童があるのでボランティアとして入ってきてくれたりはしますが、うちの子も中学3年生でプレイセンターの活動に、私の体調が悪い時にも、癒されたいから1人で行って来ると言って、私が居なくても行けるような場所がありますが、癒される場所としてもそうですが、今日は特に高校生のパワーに圧倒され、きらきらしている高校生を目の当たりにして、高校生発信でもう少しこういう場にしてはどうか、という意見をもらったり、中学生、高校生がもっと発言できる場づくりをもっとしていければいいなと感じています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。たくさんのご意見、アンケートを寄せていただきました皆さん、本当にありがとうございます。この後、最後にもう1枚アンケートがありますので、全体をお聞きになって言いそびれてしまったことやアイデアなどもどんどん最後のアンケートにご記入いただければと思います。

パネリストによる「〇〇なまち」発表・まとめ

進行（重岡）：

最後に本日の振り返りをさせていただきたいのですが、今回のお話のまとめとして、パネリストの皆さんに目指す将来像を〇〇なまち、としてフリップにお書きいただき、宣言いただきたいと思います。池井さんからよろしいでしょうか。

池井氏：

「多世代にわたって人がつながりお喋りが絶えないまち」です。

進行（重岡）：

ありがとうございます。いいね！もたくさんあがっています。ありがとうございます。ぜひ皆さん喋り場でお喋りしていきましょう。続いて、吉田さんお願いします。

吉田氏：

「観光で稼げるマチ」です。

進行（重岡）：

たくさんいいね！があがっています。ありがとうございます。それでは、安河内さんお願いいたします。

安河内氏：

「人がつながり、人が地域が育つまち」です。

進行（重岡）：

たくさんいいね！いただきました。ありがとうございます。それではここで尊田区長よりコメントをいただきたいと思います。

尊田区長：

皆さん、いろいろな活発なご意見をいただき、ありがとうございました。改めて、南区の様々な課題やいいところをどう使っていくかについて、しっかり考える時間となりました。このいろいろなお話を何でつなぐのかなと考え、人であったり、モノであったり、いろんなものをつないでいかななくてはいけない。どうつなぐかということが、一つの大きなテーマだったと思っております。

人と人のつながり、縦横のお話し、若い世代の皆さんからもいっぱいお話しいただきました。その点においては、情報発信の在り方やイベントの機会の提供、また、市民センターの場づくりのお話もありましたし、そのようなつなぐツールについて考えるということ。観光の話で言いますと、外から来る人のツールとしてのモノレールの話もありましたし、空港も大事な視点だというご意見がありました。自然の魅力、南区らしさといった話もあり、その魅力をいかに経済の視点からもお話がありましたように、いかに高めていくかということもしっかりと考え、その魅力を生かして外から呼んでくる。

南区は物理的にも交通網も整っていますので、「交流」というのは1つのキーワードとしてあると思っております。それを「つなぐ」と読むのか「クロス」と読むのか、どう読むのかはありますが、色々な人のつながり、育ち、成長、それから自然とのつながりというものをどうつなげていくのか。それらを通じて、未来に向けて希望として、新しい価値が生まれるまちとなればよいなと思っておりました。私の感想ではございますが、以上でございます。ありがとうございました。

進行（重岡）：

ありがとうございました。それでは最後に、武内市長より本日を振り返って一言お願いします。

武内市長：

今日ご参加いただいたみなさま、ありがとうございます。こちらから見ていると、前には10代の方が居て、その後ろには、もう少し上の方がいらっしゃって、本当に様々な性別、年代の方が来られていて、このような場ができること自体も大変うれしいなと思いました。

私も多くの気付きを今日はいただきました。南区は前回1回目をやって、今日もやりましたが、南区の皆さんのつながろうという思い、そして一緒にまちを作りたいというその思いが、ものすごく強いなと改めて感じました。

垣根を超えるまち。そのようなイメージを持ちました。これが世代の垣根であったり、あるいは職業の垣根であったり、地域の垣根であったり、あるいは訪れる人と住んでいらっしやる方の垣根であったり、いろんな垣根をみんなが超えようという気持ち強いことを、ものすごく南区のチャージングなところだなと思います。

ただその際に、今日もお話にでましたが、やはり情報が行き交って、人が行き交うためには、「場」が必要だと、こういう場も必要でしょうし、レストランの話も出ましたし、さらに駅の話も出ました。市民センターの話も出ました。今ある南区の様々な場所をもっと人が行き交う場所になるように、バージョンアップ、もうワンステップ上げていくことによって、私たちのこの南区のライフスタイルがさらに豊かになる。コロナの時代で、人とのつながりが分断されてきて、ややもすれば、子育てや介護や様々なところで離れてしまう。これつながるような努力をしていきたいなと思います。

私は欲張りなので、つながろうと思う人だけではなく、モヤモヤしている人、子育てや介護とかいろいろな生活の中で、まだ悩みというほどじゃないけれど、モヤモヤとしている段階でも自然に集まれて、経験が分かち合える。東京には暮らしの保健室のような取組もありますが、そういったところはシニアの皆さんのご経験とかコミュニティ能力がすごく役立つと思います。ぜひそういったところで、皆さんが何気なくつながれるそういう場所を作っていくことも大事なのかなという気付きを得た1日でした。その他にも、観光の話など明るい話もありまして本当に多くの気付きをいただきました。皆さんありがとうございます。

進行（重岡）：

ありがとうございます。垣根を越えて、豊かになっていく南区が楽しみです。

以上をもちまして、ミライ・トーク in 小倉南区のプログラム終了させていただきます。

以上